

研究レポート No.701 岩手県農業研究センター

ぶどう品種「エーデルロツソ」の花穂整形方法と適正着果量

【1 成果概要】

- (1) 花穂の整形においては、開花始期（副穂の開花が始まった頃）に副穂を除去し、花穂の長さを9cm以上にします。なお、花穂先端は切り詰めず果房が円筒形になるようにします。
- (2) 結果母枝第1～3節位では副穂除去により花穂の長さが9cm以下になる場合があるので、芽かきや空枝の対象にします。
- (3) 着果量は1葉当たり13g程度が適します。1葉当たり23g程度では果実の糖度が低く、着色も不良になります。また、1葉当たり15g程度では果実品質は良好ですが、新梢の登熟率が低く、結果母枝として利用できない新梢が多くなります。

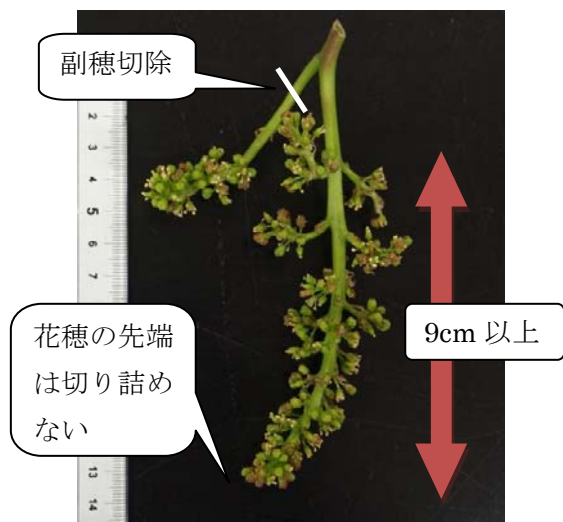


表1 花穂長別の果実品質

試験区	房重 (g)	果房長 (cm)	着粒数 (粒)
花穂9cm以上区 (副穂のみ除去)	264	14.0	25.8
花穂9cm房先除去区	251	12.8	25.4
花穂7cm房先除去区	231	11.8	24.3

表2 着果量別の糖度及び新梢登熟率

試験区	糖度 (Brix%)	新梢長 (cm)	登熟率 (%)	着房の目安 1新梢当たり
12～13g/1葉	19.6	137.7	67.6	0.75房
16～15g/1葉	19.1	112.1	51.6	1.0房
22～24g/1葉	17.2	91.4	49.5	1.25房

※調査年：糖度(H24～25)、新梢長及び登熟率(H25)

【2 効果】

- (1) 「エーデルロツソ」の房重や糖度などの品質が良好な果実の生産が図られます。
- (2) ぶどう産地の活性化につながります。

【3 留意事項】

- (1) 花振るい防止のため開花期に摘心を行います。
- (2) 樹勢は中程度で落ち着きやすいが、着果過多になると樹勢が弱ることがあるため、芽かき、施肥、剪定等の管理により樹勢を適正に保ちます。また、着果過多は凍霜害を助長することから適正着果量を厳守します。
- (3) 試験樹は長梢せん定樹を使用しています。

【4 適応対象】

県内ぶどう生産地帯、農業改良普及センターなど指導機関